

# たがわのきゅうり

## 今年、一躍します。

庄内地方でも有数のキュウリ産地である鶴岡市櫛引地域では4月5日から出荷がスタート。21年産は、新規キュウリ団地の完成とキュウリ画像選果機の導入に伴い、収量向上と労力削減の期待が高まっています。



キュウリ圃場  
生育良好。

収穫最盛期は6月と9月。  
徹底した栽培管理を実施！



当JA櫛引支所下山添野菜出荷組合は4月14日に鶴岡市櫛引地域でキュウリの圃場巡回を行い、組合員約20人と種苗メーカー地域担当者が生育状況や今後の栽培管理などを確認しました。キュウリのハウス10カ所を巡回した結果、2021年産の生育状況は、葉色が良く病害虫被害も少ない順調な生育で推移しています。今後は、従来の灌水に併せ手灌水など行き生育をそろえていく他、引き続きハウス内の温度・湿度管理を徹底し高品質生産を目指していきます。



鶴岡市 櫛引地域

1965年頃からキュウリ栽培が始まり、櫛引地域では生産者25人が約3畝で栽培・出荷しています。



櫛引支所に導入したキュウリ画像選果機。  
4月28日から稼働している。

画像選果機で  
作業効率向上。

2020年から着手した総面積約90㍎の新規キュウリ団地が21年3月に完成を迎えた現在、栽培規模拡大による出荷調整作業での労力軽減を実現するため、櫛引地域にあるJA青果物集出荷所に画像選果機を導入しました。自動でキュウリを等級別に選別できる機能が装備され、箱詰めや品質チェックが行われる搬送ラインが設けられているなどこれまでに生産者が行っていた選別や箱詰めを委託することが可能となります。JAでは主に三川町の地元市場や関東市場に出荷しており、2026年度までに出荷量400㍎、販売高1億円を目指しています。

生産拡大を願って。

JA櫛引支所で4月26日、キュウリ画像選果機導入に伴う安全祈願祭が開かれ、選果機稼働の安全と鶴岡市櫛引地域にある下山添キュウリ団地の生産・販売拡大を祈願しました。

下山添野菜出荷組合の組合長とJA役員ら約20人が出席し、春日神社の難波玉記宮司によって神事が執り行われました。当JAの菅原勝代表理事専務は「1960年代から始まったキュウリ栽培は今日までバラ集荷や加工販売を行うなど工夫を施してきた。今回の選果機導入で生産者の所得向上につながってほしい」と話しました。



安全と生産拡大を祈願するJA役員ら。